

三井農林株式会社 様

三井農林株式会社の母体は 1909 年に設立された三井合名会社の農林事業、製茶業部門です。

日東紅茶の前身は 1927 年に発売され 80 年の歴史の中で国産ブランドとして定着してきました。三井農林が扱う商品としては、日東紅茶、三井銘茶に代表される家庭用と、原料あるいは製品としてユーザーのお客様にご使用いただく飲料原料、業務用の 2 つに大別されます。

三井農林様には、15 年以上に渡り棚 POWER を利用していただいております。最近では BI システムのリプレイスとして Report Designer を導入頂きました。今回のユーザー事例は、これら二つを取り上げ、ご紹介します。

三井農林株式会社

三井農林株式会社 会社概要

設立	1974 年（昭和 49 年）
代表取締役社長 本社	阿部 庸行 東京都港区西新橋 1-2-9 （日比谷セントラルビル）
事業内容	家庭用紅茶・緑茶等の製造販売、 ホテル・レストランチェーン、カ ップベンダー（自動販売機）への製 品供給、および各種茶系飲料の原 料供給、茶抽出物／茶カテキンの 研究・開発および原料供給・製品 販売

既存の BI ツールを Report Designer で置き換え



150 種類の帳票をわずか半年で移行

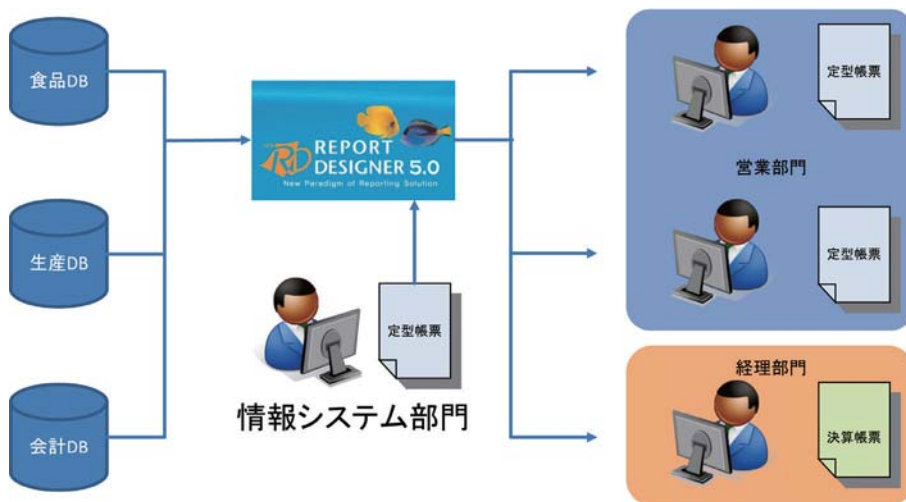
三井農林株式会社が扱う商品の性格上、個々の営業担当者が注文を処理するわけではなく、システムでの一括処理となるため、日々の受注状況などを把握するためには受注システムのデータを見る必要があります。このため、三井農林では古くから担当者が基幹システムからデータを抽出して活用するという文化が備わっており、1999 年には既に本格的な BI システム

を導入していました。この BI システムは最終的には 300 ライセンスまで利用者が拡大し、帳票も 1,000 種類を越えるなど、非常に活用度の高いシステムでした。

Report Designer を BI ツールとして活用

しかし、三井農林は、BI システムのリプレイスを決断されました。最大の原因は「なんといい

ても、保守費用が高すぎたことです。」というのは、三井農林株式会社経営企画本部情報システム部部長の黒鳥 義宣氏。しかし、10 年以上利用し、ユーザーも多数いるシステムをリプレイスするという決断を下すには、当然大きな不安があります。黒鳥氏は「ミツイワさんから使い勝手が良く生産性の高いツールとして Report Designer を提案していただいたので、移行の



決断ができました。」と明かしてくれました。

Report Designer は多様なデータベースと直接・間接的に連動してユーザーのニーズに合わせたレポートを手軽に作成できるレポートツールですが、それまで BI システムで使っていた帳票の多くが Report Designer で置き換えられることが分かったのです。

Report Designer でできない処理については別のシステムを利用することとし、コストを抑えてよりよい環境を整えることができました。

150 種類の帳票を半年で移行

まずはそれまで使われていた 1,000 種類の帳票を詳細に分析したところ、似通った機能を持つ帳票が多数見つかりました。これは、以前の BI システムがユーザーに帳票のカスタマイズを許していたため、オリジナルを修正して派生した帳票が多数を占めたためです。

これらの重複を排除し、必要と思われる帳票に絞り込んだ結果、150 の帳票を移行させる必要があるとの結論に達しました。

この帳票移行作業を担当したのが、当時入社半年だった情報システム部の鈴木 朝悦氏ともう一人。たった二人で、150

種類の帳票をわずか半年で移行させなければならなかったわけです。

「それまでデータベースも BI も触ったことが無かったのですが、Report Designer は素人にもわかりやすく、取っつきやすかったので助かりました。」と鈴木氏。

生産性の高さが魅力

鈴木氏はさらに、特筆すべきは Report Designer の生産性の高さだと言います。「システムに固有の仕組みや言語を覚えなくて良いので、すぐに開発を始めることができます。特に、帳票を作っていて、ワンクリックで

動作確認ができるのが良いです。これで生産性がものすごく伸びますね。」「最初は何も分からない状況でしたが、いったん作り方を覚えてしまうと、その後はどんどん作れます。」

黒鳥氏も「Report Designer は、BI ツールとしてできることは限られますが、ほとんどの帳票はそれほど高度な処理は行っていないということが分かりましたから、これでも十分に使えます。操作が簡単で覚えやすいので、帳票作成の担当を増やすことができ、帳票のカスタマイズにも対応できるようになり、ユーザーが帳票をカスタマイズしなくて済むようになりました。」と、全社的な効率を上げることができたと指摘しています。

一番使われている帳票は 売上管理レポート

冒頭に書いたように、受注状況を把握するためにはシステムのデータが必要なため、売上管理レポートは最も利用頻度の高い帳票です。営業担当者は毎日何回もこのレポートを利用しますし、物流など他の部門からも参照されます。



三井農林株式会社経営企画本部情報システム部の鈴木 朝悦氏、黒鳥 義宣氏

一方、せっかく移行したのに使われていない帳票も、やはり一定数あるということです。精査の難しさを示す例といえるでしょう。

Report Designer への移行後は、ユーザーが帳票を直接カスタマイズできないこともあり、帳票の種類は移行した当時の 150 種類から、今でもあまり増えていないそうです。移行の際の絞り込みの効果と、修正の要望を取り入れながら使いやすいように

常に改善を続けていることが要因と考えられます。

将来は営業支援やワークフローの一部として利用したい

黒鳥氏は、Report Designer の使いやすさ、生産性の高さを活かし、将来は他のシステムにも利用を広げたいと考えています。「具体的には、営業支援へのデータ入力や申請書作成の省力化に使えないかと考えています。営業支援やワークフローシ

ステムへのデータ入力時に、基本的なデータや過去の経緯などは最初から入力された状態でフォームを出すことができれば、ユーザーの負担を減らすことができます。この部分に Report Designer を使えないかと考えているのです。」

Report Designer の活用分野は、単なる帳票システムの枠を越えて広がっていきそうです

NITTOH BLACK TEA

日東紅茶

